

手話言語条例等の イベントを開催します



草加市手話言語条例及び草加市障がいのある人のコミュニケーション条例のさらなる周知を目的としたイベントを行います。映画上映後には、視覚や聴覚に障がいがある人や車いすが必要な人など、様々な人が映画を楽しめる、日本初のユニバーサルシアター「CINEMA Chupki TABATA」代表の平塚千穂子氏のアフタートークを行います。

日12/23(土)14時～ 場中央公民館

内①手話講座 ②映画上映「こころの通訳者たち」
③アフタートーク

定350人

用11/6(月)～12/15(金)までにファクスまたは市HP(QRコード)で。

問障がい福祉課 ☎922-1436 ☒922-1153



特別職報酬等審議会 委員募集

市長、市議会議員等及び各種審議会の委員等の報酬について意見を述べ、検討する市民委員を募集します。任期は令和6年1/1から2年間で定員は1人、報酬は1会議につき7000円です。

用市内在住の18歳以上(令和6年1/1時点)で、市の他の審議会等の委員になっていない、過去に同審議会の公募委員として選任された経験がない人。

用11/30(木)までに、市役所情報コーナー等で配布する審議会等委員応募用紙(市販のA4用紙でも可)に審議会の名称・氏名(ふりがな)・住所・性別・生年月日・年齢・電話番号・公開抽選日の出欠・現在の職業・主な職歴・地域活動等の経験・小論文「草加市の特別職の報酬等について」(600～800字)を記載し〒340-8550職員課へ。ファクス、メールも可。

問職員課 ☎922-0985 ☒922-3098 ☒shokuinka@city.soka.saitama.jp

車椅子利用者等の駐車場「利用証」を交付

駐車時に車のルームミラー等に掲示することで、「車椅子利用者用駐車区画」や「優先駐車区画」などの専用駐車スペースを利用できる「利用証」を交付しています。

用交付を希望する人は、各窓口か申込フォーム(QRコード)で申請してください。

▼申込フォーム



(24時間申込可能)

区分	交付基準	申請に必要な書類等	窓口・問い合わせ 平日8時30分～17時	
身体障害者	視覚障害	4級以上	障がい福祉課 ☎922-1436 子育て支援課 ☎922-1483	
	聴覚障害	3級以上		
	平衡機能障害	5級以上		
	肢体不自由	上肢		2級以上
		下肢		6級以上
		体幹		5級以上
	脳原性運動機能障害	上肢機能2級以上 移動機能6級以上		身体障害者手帳
内部障害(免疫機能障害を含む)	4級以上			
知的障害者	A以上	療育手帳		
精神障害者	1級	精神障害者保健福祉手帳		
高年者等	要介護1以上	介護保険被保険者証	介護保険課 ☎922-1032	
妊産婦	妊娠7か月～産後1年まで	母子健康手帳	保健センター ☎922-0200 子育て支援課 ☎922-1476 子育て支援センター ☎941-6819	
難病患者	次のいずれか 特定疾患医療受給者、指定難病医療受給者、 小児慢性特定疾病医療受給者	次のいずれか 特定疾患医療受給者証、指定難病医療受給者証、 小児慢性特定疾病医療受給者証	福祉政策課 ☎922-1234 (一部) 子育て支援課 ☎922-1483	
けが人等	医師の診断等により、歩行が困難であるために特別な配慮が必要であると認められる人	次に挙げる全て ・医師の診断書か意見書または公的機関の証明書等 ・身分証明書(運転免許証、マイナンバーカード等)	福祉政策課 ☎922-1234	
その他車いすが常時必要と認められる人	医師の診断等により、車椅子の常時使用が必要であると認められる人			

利用証(3種類)

駐車時に車の
ルームミラーに掲示



車椅子利用者用 その他の高年者、障がい者等用 妊産婦、けが人等用

利用できる駐車区画

(イメージ)



区画のある施設は県HPで確認できます。

市役所にもあります



▲市役所の駐車スペースは、(株)アークスの協力で就労訓練生実習生の皆さんに塗装していただきました。

読書の秋

皆様こんにちは。「読書の秋」がやってきました。幼い頃、よく父が絵本を読んでもくれました。わくわくしたのは、食べ物が出てくるお話。ぐりとぐらが森で焼いた大きなカステラ。トリたちのためにコロツケをせっせと揚げる11匹のねこたち。今でもその場面が目につきます。今回の一面は、草加小学校の読み聞かせ「おはなしの森」。市内の小学校では、読み聞かせボランティア活動が盛んで、朝のひととき、子どもたちは絵本の世界に入り込んでいます！

本は時に、人生に大きな示唆を与えてくれることがあります。

また時には、自分では経験できない世界や他の人の人生を、あたかも自分自身のものであるかのように体験させてくれることがあります。学生の頃、英語で読んだ「赤毛のアン」や、中国の激動の時代の女性の人生を描いた「ワイルド・スワン」は、まさにそんな本でした。美しいカナダの自然の中の生活や、文化大革命の時代を自分が生きたくように感じたものです。

日々の忙しさの中で物語に入り込むことがなくなっています。が、自分の人生ではないもの、書物の中で経験するのかもしれない、と感じる今日この頃です。

ゆりコラム 16



市長コラム